

浜田まさよし通信

HAMADA MASAYOSHI NEWS



通学路安全点検

子どもたちを守れ!!

4月に京都・亀岡で集団登校中の小学生の列に無免許・居眠り運転の少年の車が突っ込むという惨事がありました。昨年1年間に通学中の交通事故で2500名以上の児童が死傷しているという現実。公明党として事故3日後にプロジェクトチームを発足させ、座長を務めることとなりました。

関係省庁からの報告を踏まえ、5月16日には、平野文部科学大臣に緊急提言を行い、これを受け、文部科学省、



通学路安全点検視察 6月1日



平野文部科学大臣申し入れ 5月16日

国土交通省及び警察庁が5月30日に全国に通知して、初の3省庁合同小学校通学路総点検をこの8月末までに実施することになりました。

6月1日には、4年前に集団下校中の児童5名が死傷した所沢の現場を視察し、市・学校・警察関係者からその後の取り組みを聴取。今回の合同総点検の結果を活かすべく、関連予算の拡充や必要な法規制の見直しを再度政府に要請しました。

ラジオ「子どもたちへのメッセージ」

1月からスタートしたラジオ番組「子どもたちへのメッセージ」。毎週、高校の同級生でもある夜回り先生・水谷修さんと、いじめ、不登校、教育行政、少年犯罪など多様なテーマについて語り合っています。是非、応援して下さい！

毎週日曜日5時25分から15分間、ラジオ日本1422kHz。ホームページに毎回、収録のトピックスをアップしています。

1月から7月までのテーマ一覧

放送月	放送日	内容
1月	1日	番組への意気込み
	8日	引きこもり
	15日	麻薬
	22日	「体の病」から「心の病」
	29日	子どもたちの心のつながりの再生へ向けて
2月	5日	いじめ
	12日	児童虐待
	19日	電子機器と子どもたち
	26日	学校で問題をかかえる子どもたち
3月	4日	震災が子どもたちへ与えた影響
	11日	東日本大震災から1年を振り返って
	18日	被災地の現状
	25日	東日本大震災でのボランティア活動
4月	1日	不正薬物
	8日	子どもたちのアレルギー問題
	15日	子どもたちの性の問題
	22日	子どもたちの性とメディア
5月	29日	少年犯罪
	6日	教育制度
	13日	子どもたちの学力の低下
	20日	子どもたちの再チャレンジ
6月	27日	子どもたちの再チャレンジ②
	3日	子どもたちを守る法律や条例
	10日	子どもたちを守る法律や条例②
	17日	成人年齢の引き下げ
7月	24日	子どもたちと家庭環境
	1日	子どもたちの夏休み
	8日	夏休みと子どもたちを取り巻く危険
	15日	子どもたちの健康
7月	22日	子どもたちとIT
	29日	子どもたちと自殺

核廃絶への取り組み



玄葉大臣答弁

予算委員会質問 4月18日

核兵器の悲惨さを世界に伝える

公明党は、2015年のNPT(核不拡散条約)運用検討会議に合わせ、被爆地広島・長崎での「核廃絶サミット」を唱えています。

政府に度重なる要請を行い、その第一弾として、オーストラリア、ドイツなど核軍縮に熱心な非核兵器国10ヶ国による核軍縮に向けての外務大臣会合を2014年に広

島で開催する答弁を玄葉外務大臣から引き出しました。さらに、「核戦争防止国際医師会議」(IPPNW)副議長で「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)代表のティルマン・ラフ医師や、「国際核分裂性物質パネル(IPPFM)」共同代表でプリンストン大教授のフランク・フォンヒッペル氏らと、核兵器の非人道的側面についての国際的議論拡大に向けて連携を確認していました。



ティルマン・ラフ氏との懇談 5月15日



フォンヒッペル氏との懇談 5月31日

浜田まさよし PROFILE

— 今、神奈川、静岡、福島を中心に活動展開中! —

- 昭和32年2月28日、大阪生まれ、横浜育ち ● 横浜市立大綱中学、神奈川県立横浜翠嵐高校、京都大学工学部卒業
- 経済産業省課長を経て平成16年7月、参議院議員選挙初当選。平成22年再選、現在2期目。元外務大臣政務官、参議院予算委員会理事、元法務委員長、党団体局長、同原発災害対策本部事務局長、同中小企業活性化対策本部事務局長、同核廃絶推進委員会座長、同福島復興再生推進プロジェクトチーム事務局長、同通学路の安全対策プロジェクトチーム座長、同神奈川県本部副代表、同静岡県本部顧問、同福島県担当 等
- 日本平和学会会員、ストップ結核推進議員連盟事務局長

メールマガジン 毎週月曜日配信!



登録用QRコード 空メールを送れば 登録完了です。



担当者から説明を受ける党福島市議団のメンバー(右から4人) 参院復興特委で答弁 2011年7月14日



政治主導の仮払基金法で県民の声を実現

自ら発議し、衆参での委員会答弁に立った原発被害仮払基金法。東京電力による賠償が遅れていた福島、茨城などの観光業者への仮払いを促進したほか、2月10日には自主避難や全県民への精神的損害への賠償などを含む約400億円の予備費による基金も閣議決定し、福島県内の全ての小学校給食センターに放射能検査機の設置を実現。福島市でも21カ所に設置され、午前中に検査、給食時間までに結果を学校に通知することが可能に。市民が持ち込んだ食品検査にも対応しています。



毎日新聞 2012年1月16日付 二本松 浪江で保管の石加工 福島第一原発災害に対する政府への緊急要請 2011年6月6日



小さなガラスバッジの大きな成果

1年前、あるお母様から放射能不安のお声を頂き、翌日、官房副長官に申し入れ、9月から福島県下の15歳以下28万人と妊婦さん2万人への無料配布を実現したガラスバッジ。本年1月に報道された、高い放射線量が計測された二本松のマンションの発見という「副産物」も。また、公明党の要請で、ガラスバッジの計測データの国・県での把握分析が進み、実際の子どもたちの個人被ばく線量は当初の推計値を大きく下回ることもわかり、子どもたちの安全・安心へ成果を上げています。



ガラスバッジ

声をカタチに! 福島復興・再生に全力!!



福島特別法の公明党案を発表 1月24日

公明党のリードで福島特別措置法成立

放射能の不安の中での復興再生。幅広い政策を体系的に長期的に推進していくためには「特別法」が必要と最初に声を上げたのは公明党です。党のプロジェクトチーム事務局長として毎月のように現地を訪問し、党独自の法案骨子を1月24日に発表。度重なる大臣への申し入れや与野党協議もリードして、「人間の復興」という理念のとともに、子どもたちの安心のための医療費無償化を盛り込んだ福島復興再生特別措置法を3月30日の参議院本会議で成立させました。



福島県知事からの要請 2月24日



福島民報 2012年6月1日付 県赤ちゃん電話相談開設 3月21日



母乳・新生児検査が無事スタート

政府は、今年度から福島県内の希望者に対して母乳の放射性物質検査と新生児の聴覚検査(難聴の場合の早期発見・発達支援するためのもの)の検査料補助を開始するための県への交付金として7億円計上していました。しかし、その予算を執行するはずだった環境省原子力規制庁において、民主党のでたらめな対応で審議が大幅に遅れるという状況に。3月に質問主意書と予算委員会で予算の移し替えを政府に迫り、両検査をともに年度当初から無事スタートさせました。



小宮山大臣答弁 予算委員会 4月5日

福島の生活保護世帯の混乱を防止

南相馬市で精神的損害の賠償金を受けた殆どの生活保護世帯がその支給を打ち切られるという事態に。4月5日の予算委員会で小宮山厚労大臣から「福島県が自立更生に充てる分と認定すればそれは国が尊重する」という答弁を勝ち取り、4月9日、福島県下市町村の生活保護担当課長の説明会で、生活必需品の購入予定から子どもたちの資格取得費、修学旅行代、パソコン代まで幅広く収入認定の例外とする徹底が行われ、県下1万3千の生活保護世帯の混乱を防ぐことができました。

福島原発視察 安心安全な廃炉プロセスの実現へ向けて 6月9日



モニターで集中監視を行う緊急時対策本部室



24時間体制の緊急医療室



防護服・マスクなどを装着

福島現地視察



浪江町長からの要請 4月28日



いわき市津波被害地域の視察 4月9日